

A-47 元正天皇御齒髮塔奉修記念碑



元正天皇御齒髮塔奉修記念碑

茲ニ 皇紀二千六百年ヲ迎ヘ日支ノ聖戰四載ヲ閲シテ今國民
精神ノ振興ヲ強調セラルルノ秋ニ當リ平泉寺中興ノ祖顯海上
人三百五十回忌ノ辰ニ遇フ因ツテ有志相謀リテ奉讃會ヲ組織
シ其ノ事業ノ一トシテ此ノ御塔ヲ補修シ奉ル抑御塔ハ里人傳
ヘテ御齒髮様ト稱シ古ヨリ尊崇スル所ナリ惟フニ此レ當ニ因
由スル所アルヘシ按スルニ 元正天皇御不豫ノ御砌當寺開山
泰澄祈奉リテ御平癒アリシニ依リ種々御嘉賞アリシ由誌ニ見
ユ實ニ當寺ノ經營ニハ畏クモ 皇室ノ御庇護厚カリシナリ此
ノ御塔ハ蓋シ 帝ノ御遺徳ヲ偲ヒ奉ルモノカ想ヒテ此ニ至ラ
ハ誰カ感起セサラン同志力ヲ致シテ鴻恩ニ報イ奉ラントスル
所以ナリ而シテ今ヤ功成ル協賛者ノ氏名ヲ勒シテ記念トス
昭和拾五年七月廿日平泉寺中興顯海上人三百五拾回遠忌

奉贊會建之

(裏面の氏名は判読できず)

A-48 元正天皇御齒髮塔



元正天皇御齒髮塔

(側面)

皇紀二千六百年七月二十日奉修之

(側面)

元正天皇勅願所 靈應応山平泉寺

吳石 西脇 静 謹書

皇紀二千六百年…昭和十五年(一九四〇)。

A-49 (岩ヶ野神明神社灯籠)



奉納

神燈

(側面)

御大典記念

(側面)

昭和三年九月

昭和三年…一九二八年。

A-50 蓮如上人御舊跡



蓮如上人御舊跡

(側面)

文政十亥年

一月廿五日

江戸本銀町二丁目

朝倉■郎拜書

靈主 現住 釋 實■

施主江戸 講中

(横に腰掛石)

文政十亥年…一八二七年。

A-51 蓮如上人御舊跡



蓮如上人御舊跡



A-53
(法華塔)

當山開基大僧都慈觀法印



A-52
(慈觀墓)

梵字
南無阿彌陀仏
南無妙法蓮華經
法篋印陀羅尼經



A-54
(納骨堂)

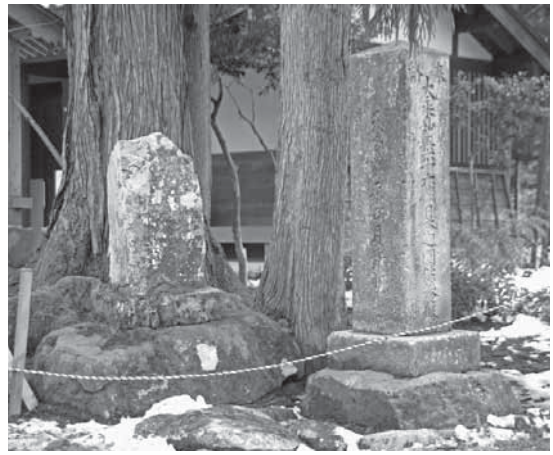
梵字
(法華塔)

御経台



A-55
御経台

A-56 (日本廻国供養塔)



奉納 大乘妙典六十六部日本廻国供養塔

(側面)

天下泰平日月清明

御室仁和寺教會社員念仏修行者

香川縣讃岐国高松産

三守 保

再建者 平泉寺村

同村 柳町 祐造
中村民五郎

右篤志者 貳百二拾名

彫刻者 勝山町 酒井 太七

(裏)

此地曾有古石塔傳記云往昔紀州侯所自建也其塔面題字與此塔所鐫相同蓋侯感時憂世欲察政治得失民利病以王侯之貴為俗所謂六部者

装巡歴六十餘国最後抵本国謁白山中宮平泉寺訪僧泰澄旧跡拜忠臣楠氏之碑其他靈區名跡探討既畢感懷不已躬自建塔名氏則秘而不傳侯之敬意果可知也從慶應二年八月七日夜瀑風折樹叢屋塔亦為其所碎破僅存其礎石耳然而爾來時勢驟變移不知攸極余等恐明侯遺跡之終湮滅故相謀再建比塔以標示後世公爾

明治二十三年十月

A-57 四国西国秩父坂東其他靈場順拝供養塔



云…去。侯…侯。蓋…蓋し。まさしく。利病得失…りへいとくしつ。利害と損得。抵…いたる。靈區…社寺などのある地域。躬…みずから。驟…にわかに。探討…さぐりたずねる。慶応二年…一八六六年。明治二十三年…一八九〇年。

四国西国秩父

順拝供養塔

坂東其他靈場

(側面)

明治二十八年建之
順拝者 柳町敬忠自刻

(裏)

塔下ノ表面各霊場本尊ノ真影
ヲ納メ扨石ノ下ニハ全会場ノ土砂ヲ
埋メ以テ参拝者ノ結縁トナス者也

明治二十八年…一八九五年。

A-58 四国西国順拝供養塔



四国
西国

順拝供養塔

(裏)

順拝同行

池端 五市 竹内 たき
中村 かね 北坂 さへ

中村 せき 田嶋 むめ

大正十二年三月出發表記ノ

霊場ヲ巡拝シ本尊ノ御影及ビ

土砂ヲ塔下ニ埋ム

昭和三年四月 建之

大正十二年…一九二三年。昭和三年…一九二八年。

A-59 西国四国順拝紀念



西国
四国

順拝紀念

A-60 四国西国順拝供養塔



西国
四国

順拝供養塔

(裏)

天保十三壬寅年巡国

行者

平林助太郎

天保十三年…一八四二年。

A-61 西国三三所観世音 (菩薩)



西国三三所観世音 (菩薩)
(側面)

昭和四年七月建之
(裏)

世話人 池端 五市 杉山 五作
中村 セキ 岡田 長吉
平林五三郎 笹木源四郎
川末 吉

(側面)
発起人 中村 かね
大六 由松

昭和四年…一九二九年。

A-62 三界萬霊等



三界萬霊等

A-63 南无阿彌陀佛



南无阿彌陀佛
(側面)

文政五午年 二月十日
第一番

仁空義山
文政五午年…一八三二年。

A-64 南無阿弥陀佛



南無阿弥陀佛
(側面)

寄附 山口氏

明治四十一年

明治四十一年…一九〇八年。

A-65 南無阿弥陀佛



南無阿弥陀佛
(裏)

明治十九年一月

寄附者

山口氏

A-66 ふりむき地蔵



ふりむき地蔵
そのむかし野送りの村人に
喪主がふりむき深々と
頭をさげたとこといわれている
(裏)

平成二十年五月

柳内敏夫記

A-67 還暦記念樹



還暦記念樹

(側面)

昭和三十九年

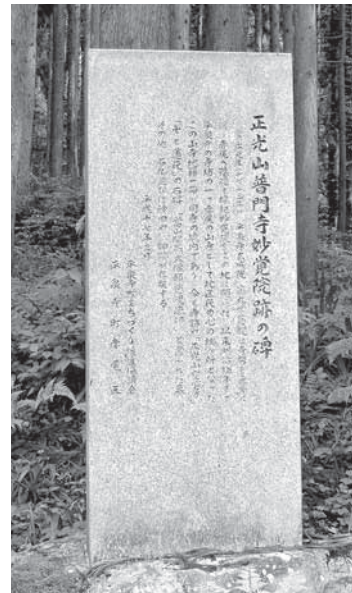
八月吉日建之

(裏)

池端 三次 中村 盛男
別段 震六 佐々木 彰
加藤 開蔵 杉山 乙松
上 藤吉

昭和三十九年…一九六四年。

a-41 正光山普門寺妙覚院跡の碑



正光山普門寺妙覚院跡の碑

寶永元年（一七〇三年）平泉寺玄成院 第九世慈観は寺務を直弟に譲り赤尾へ陰隠し標記妙覚院をこの地に開いた 以来明治初年まで平泉寺の寺坊の一つ赤尾の山寺として地区民の心の拠り所となったこの山寺地籍一帯が同寺の境内であり 今も寺跡や「正光山空心房」「卍と蓮花」の石碑「当山開基大僧都慈観法印」と書かれた墓その他 石仏並びに神田や 畑跡が存在する

平成十七年三月

平泉寺町まちづくり推進協議会

平泉寺町赤尾区

(裏)

赤尾の夕照（靈応山平泉寺十二景詩より）

鐘鼓晴を報じて 積雨収まる

老松怪柏 四時稠し

嵯峨たる蒼翠 山邨の晩

斜日丹楓 独り秋を領す

（一七四六年 大野城後学 泉時出 源直方作）

2節 猪野瀬地区

地区内には人物碑3、忠魂碑1、一般碑21の合計25基の碑が建てられている（表6参照）。分布のうえでは片瀬区、なかでも仏母寺に集中しており句碑が目立つ。12、14は主藤素史・松瀬青々らが仏母寺を訪れたおりに読まれた句を刻んだもので、碑は大正十四年（一九二五）に建てられたものである。その他の主な碑として享保十一年（一七二六）の女神川の洪水で、犠牲者となった人たちの供養碑が猪野口区に建つ。泰澄大師生母の廟所は旧下毛屋地区に建つ。エコ関係碑は3基である。

女神川下流に「享保十一年」と刻まれた岩が今も埋まっている。

表6 猪野瀬地区石碑一覧

記号	番号	名 称	分類	場 所
B	1	長谷川光君碑	人物	若猪野
B	2	(泰澄大師御生母廟所)	人物	下毛屋
B	3	故陸軍歩兵伍長笠松利作之碑	人物	下毛屋
B	4	忠魂碑	忠魂	片瀬白山神社境内
B	5	記念碑	一般	猪野口バイパス沿い
B	6	記念碑	一般	若猪野
B	7	師山尋常小学校記念碑	一般	片瀬白山神社境内
B	8	白山稚児神社御造営事業奉納者碑)	一般	猪野白山神社境内
B	9	白山稚児神社御造営記念碑	一般	猪野白山神社境内
B	10	(八幡神社由緒碑)	一般	毛屋八幡神社境内
B	11	勝山消防組頭幹部功労者碑	一般	若猪野
B	12	(主藤素史句碑)	一般	仏母寺境内
B	13	(松瀬青々句碑)	一般	仏母寺境内
B	14	(伊藤柏翠句碑)	一般	仏母寺境内
B	15	(芭蕉句碑)	一般	仏母寺境内
B	16	泰澄大師御生母廟	一般	(下毛屋)
B	17	(八角塔)	一般	片瀬大師山山頂
B	18	遠慶宿縁	一般	片瀬杉木
B	19	百世同穴之碑	一般	仏母寺境内
B	20	(法華塔)	一般	仏母寺境内
B	21	三界萬霊等	一般	仏母寺境内
B	22	(災害供養碑)	一般	猪野口 女神川近く
B	23	村社八幡神社	一般	猪野口八幡神社
B	24	時雨堂	一般	上高島
B	25	(町村境界碑)	一般	下毛屋
B	26	泰澄大師御生母廟所	エコ町	(下毛屋)
B	27	大師堂	エコ町	片瀬
B	28	記念碑	エコ町	若猪野

B-1 長谷川光君碑



大正四年七月一日

猪野瀬村消防組頭 長谷川光君碑

尾崎行雄書

有志
(裏)

世話人

大正四年七月建之

梅田幸次郎
鳥山七兵衛
中村善五郎
酒井吉之助
山本 岩松
中村 和吉
伊藤 善松
乾 藤助

(イロハ順)(一段)

和田安太郎
米村孝
山内徳太夫
松下松榮
久保稔
伊藤亀吉
伊藤吉松
林丈作
長谷川長作
長谷川金作
長谷川與作
長谷川又一
富田茂作
鳥山市太郎
鳥山吉助
大西甚太郎
上山仁作
上山與三吉
田中困松
津張由松
南部乙吉
南部表
中村小市
中村和吉
山崎刃造
山口治太郎
前川新作
藤本長作
酒井吉之助
酒井三作
斎藤治郎吉
斎藤甚大
酒井與作
酒井太吉
宮川倉造

部 一 第

(二段)

乾藤助
石黒久太郎
長谷川福太郎
鳥山甚之丞
大沢勇吉
大森茂作
大森啓治郎
田中喜太郎
竹内三作
中村宗作
中村左右門
中村末吉
竹内寅吉
久保伊次郎
山内加吉
山尾長松
山宗太郎
山尾清造
山本岩松
山内與造
山内廣
松浦伝右門
前田勘三
古川喜之助
小沢浅吉
木下界三
三屋五作
前田勘次郎
長谷川七太郎

部 二 第

石工

(三段)

牧野喜之助
鳥山市太郎
酒井三作
酒井太吉
長谷川与作
長谷川文
長谷川金作
中村小市
献石寄附
下荒井区

總練梁

一部氏名が判読不能である。



(泰澄大師御生母廟所)

B12 (泰澄大師御生母廟所)

大正四年：一九一五年。尾崎行雄：神奈川県出身の政治家。議会政治の黎明期から戦後昭和二十八年（一九五三）まで衆議院議員を勤めた。「憲政の神様」と呼ばれる。

B-3 故陸軍歩兵伍長笠松利作之碑



故陸軍歩兵伍長勲八等功七級笠松利作之碑

釋 彰 謹

(裏)

故笠松利作明治卅三年十二月入隊於徵兵
第九師團歩兵第卅六聯隊現役中被授与
射撃徽章賞状并蕭行証書明治卅六年十一
月歸林除隊後被編入豫備隊歸郷中明治卅
七年五月十六日應充員召集入元隊同年七月
十九日為征露軍宇品港出帆同月廿五日
清国盛京省上陸樹幾多之誉加於激
戰同年十月廿六日任歩兵伍長翌月有表記之叙勲
終盛京省東八里庄付近戰闘之際受左胸部
創同年十月十八日同省長春野戰病院
明治卅九年六月建之

大野郡猪野瀬村毛屋兄弟笠松平左衛門

B-4 忠魂碑

旧名を鳥山利作といった。明治三十三年…一九〇〇年。蕭(善)行証書…満期
除隊に際し与えられた。宇品港…広島県の外港。大陸への軍用輸送基地。



(別碑)

英靈者名列

小澤 大三	藤田嘉二馬
大森 正次	山田 啓松
山下 武夫	大澤 初雄
前田 喜義	大澤 由三
門戸 文雄	竹内 等
中村 薫	小澤 秀雄
山口 賢二	小澤 恵
大澤 瀬	前川 吉雄
大森 盛雄	

大正四年…一九一五年。昭和四十七
年…一九七二年。

忠魂碑

吉野 武謹書

(裏)

大正四年九月置設
昭和四十七年八月建之
遺族会
温交会

B15 記念碑



県営土地改良総合整備事業
勝山南部第一地区
記念碑

福井県知事書

(裏)

土地改良総合整備事業
着工 平成7年度
完了 平成14年度
勝山南部土地改良区

猪野口工区

全体面積14・8 ha

土地改良組合員名簿

理事長 牧下 信芳

石橋 廣

婦山 一

中出 正博

橋本 巧

藤木千代子

前川 新一

委員 廣瀬久仁雄

今井 正敏

平成14年10月

婦山 一美

婦山 彌

中道庄志朗

廣瀬 英夫

古川 孝志

米村 修二

野尻 一義

婦山 進

津張 忍

南部 謙治

廣瀬 資孝

前川 輝雄

婦山 信勝

藤木 耕読

B16 記念碑



県営農村基盤総合整備事業

第二次、新農業構造改善事業

記念碑

福井県知事

栗田幸雄書

(裏)

若猪野区圃場整備事業及び環境整備施行者名

伊藤竹次	酒井市太郎	斎藤 学	中村昭六	長谷川晋一	牧野喜吉
大西光栄	酒井和喜	斎藤 実	中村利夫	長谷川治一	牧野則男
加藤喜代志	酒井久恵	筒井善洗	中辻利幸	長谷川隆利	和 田 栄
加藤 豊	酒井義一	鳥山郁雄	中野博文	長谷川正	和田四郎
上山英二	酒井茂満	鳥山茂男	野村義雄	長谷川武夫	和田政次
木下茂吉	酒井忠雄	鳥 山 昌	長谷川秋男	長谷川忠夫	笠松 徹
北沢秀一	酒井雅浩	鳥山実雄	長谷川勝三	長谷川敏夫	村井昭三郎
源野一公	酒井正尾	鳥山六治	長谷川数也	長谷川弘一	
小林孝治	酒井吉一	鳥山富士夫	長谷川重雄	長谷川弘三	
酒井 明	斎藤 勇	中村與市	長谷川重一	松山保城	

平成三年六月

碑文

若猪野村は古く天正二年柴田領で其の後元禄五年郡上藩（岐阜県郡上八幡）に属し井上氏 金森氏 青山氏が代々越前大野郡内に散在する所領（二万五仟石）を支配していた又当村には陣屋（十三字現在の白山神社東に屋敷跡古井戸がある）がおかれ明治四年廃藩置県までは勝山町に次ぐ政治経済教育が盛んで裕福な村であった若猪野村の農地は東女神川西九頭竜川に沿

うており四十二町二反の面積を有していたしかしながら再三乃河川の氾濫による流域変更で荒地川欠の地と化した又女神川の水利をめぐる毎年争いが絶えなかった特に渇水期四ヶ用水口に於ける水争いは異常な物も有った 其の後昭和初期勝山用水（女神川下）より取水組合用水（新規用水）を作り二字五字の荒地畑地を開墾し水田化した又女神川の水利に付き新大用水が出来る迄下三区（大渡区、若猪野区、北市区）と平泉寺区、猪野口区、毛屋区との間に相方立合の上土地検分（未開発地の水田化）が行われた 平泉寺区に於ては現在も一部経（マ）統中で有る 近年は農業の取り巻く環境が著しく変貌したため高性能の機械化の導入が余儀なくなりここに昭和四十九年より新農業構造改善事業さらには県営農村基盤総合整備事業（五十四年から平成元年）を（二十四町歩 工費一七七、三五七千円）計画し農地の流動化をはかり近代的農業経営にのりだした これらの事業導入により野菜団地の造成（ハウス団地七千二百万円）と集落環境整備事業（集落センター農村広場五千万円）及び近代化による大型機械の導入三千二百万円が図られ圃場整備によって現在まれにみる活力ある住みたい村に変貌した ここに先人達のためまぬ努力により農用水の確保と、又適切

なる行政指導がありそして村人たちの多大な協力により大事業を成し遂げるに至ったよって終生忘れることなく感謝し記念碑を建立して後世に伝えんとする
平成三年六月

若猪野区

若猪野土地改良組合

天正二年…一五七四年。明治四年…一八七一年。
昭和四十九年…一九七四年。

B-7 師山尋常小學校記念碑



師山尋常小學校

記念碑 (裏)

記

明治七年

明治十一年

明治二十七年

明治三十六年

明治四十二年

昭和六年

平成七年九月

片瀬区

明治七年…一八七四年。昭和六年…一九三一年。

片瀬村民により龍ヶ池(平泉寺)小學校から分離し、仏母寺を仮校舎として発足する。
中村銀之助と三竹忠朝を招き師山小學校として発足する。
当地に間口三間奥行七間の校舎を新築する。

一月 三間に二間の校舎を増築し三月落成、御真影を奉戴する。

校舎の幅が三間と狭いためこれを売却し四間幅、長さ七間半の校舎を新築する。

十一月 學級編成の都合により四間に四間半の校舎を増築する。

四月十五日 猪野瀬村の勝山町編入の際に廃校となる
記念碑建立する

B-8 (白山稚児社造営事業奉納者碑)



白山稚児神社御造営事業奉納者名

(二段)

今井三右衛門	勝山市市長
笠羽清右衛門	県会議員
別田 重雄	県会議員
上山 稔	東京都文京区
(株)豊栄観光	昭和町一丁目
長岡 圭輔	新保
平泉 滋祥	平泉寺
中村 敏雄	福井市大宮
中村 吉男	ハニー中吉商店
馬場 英一	福井市西谷町

長谷川重雄	若猪野	齊藤与四郎	元町三丁目	長谷川義孝	北山	加藤 久栄	北市
三屋 一栄	三屋自動車(株)	白木 駒男	栄町三丁目	坪井 定雄	新町	喜多山真二	大野市陽明町
山中 一男	大矢谷	嶋田 重則	北野津又	原 千代子	大阪市浪速区	久我ふみゑ	三方郡美浜町
三屋 旭	元町三丁目	田丸ひさを	神奈川県相模原市	平泉 隆房	平泉寺	軒内 政	元町三丁目
北川 淳子	下毛屋	多田 守	東京都江戸川区	藤田 護	大野市中津川	酒井 勝	黒原
島田 茂	元町二丁目	多田 英夫	名古屋瑞穂区	藤沢 善隆	沢町二丁目	酒井 義一	若猪野
中村秀太郎	片瀬	田中 誠	東野	北陸製薬(株)	立川町	田鳥幸八郎	平泉寺
松山 保雄	若猪野	棚田よし子	竜谷	松井 信	本町二丁目	(株)アート	郡町二丁目
三屋 忠治	埼玉県所沢市	辻次郎右衛門	大野市庄林	松田 光雄	大阪市住之江区	石川よし子	東京都
宮塚よしゑ	大野市横枕	辻 忠雄	北西俣	宮川 治	大野市平沢	加藤喜代志	若猪野
鳥山 昌則	埼玉県富士見市	手塚 輝治	赤尾	三屋喜代支	三方郡美浜町	後藤 豊	福井市
荒川 一之	大野市糸魚町	親和建设(株)	若猪野	三屋 忠幸	埼玉県大宮市	(三段)	
天野 一郎	愛知県岩倉市	(有)前川組	猪野口	見谷 春美	福井市新保	竹内 正男	片瀬
天野 喜芳	埼玉県上尾市	前田 吉郎	村岡町寺尾	三屋 普教	元町二丁目	田中 豊	昭和町一丁目
天野 昭三	元町三丁目	(二段)		三屋 光治	旭町二丁目	鶴野 英二	猪野
浅野 修一	福井市高木町	東漸 一道	伊地知	水島 義郎	福井市照手町	鳥山 茂男	若猪野
伊藤誠三郎	魚喜	友安 利子	本町二丁目	村口忠五郎	赤尾	中村 武雄	細野
石川まつの	大野市横枕	南部 定次	吉田郡上志比村	山本しず子	北野津又	西尾米太郎	栄町武生屋
加藤 絹江	北六呂市(師)	中村 五市	魚中五	柳原藤左衛門	沢町二丁目	西尾美恵子	旭町二丁目
笠松 栄一	名古屋守山区	中村 忍	東京都江東区	山下 みと	大阪市北区	野村 義雄	若猪野
笠松 秀雄	大坂府堺市	中村 重信	福井市	横井 育丸	愛知県尾張旭市	平野 八蔵	北海道室蘭市
上山 武雄	大渡	中村志づ子	大野市下麻生嶋	吉田 新一	志田	前川 慥一	赤尾
上山 巽	大渡	中村 武	片瀬二丁目	吉川 新吉	北野津又	松田治太郎	大野市新河原
木原 一男	福井市大宮町	中村 道彦	大野市大門	渡辺 とみ	京都市左京区	水上 透	福井市学園町
木下きみ子	伊知地	中村 稔	下毛屋	天野 藤男	千葉県柏市	三屋 博	大坂府泉佐野市
菊川 幸雄	大野市元町	仲谷美代子	伊地知	朝井 幸武	吉田郡上志比村	山尾 武雄	北海道帯広市
黒田 裁博	大野市右近次郎	長谷川友子	若猪野	井上三喜男	福井市運動公園	天野 吉六	猪野
佐々木与栄	敦賀市沓見	原 みつ	福井市河増町	今井 昊作	栄町三丁目	天野 俊也	猪野
齊藤喜久雄	福井市豊岡一丁目	林 健三	大野市田野	上杉 肇	旭町三丁目	上山 弥栄	市会議員

鳥山 肇	猪野
中村 勝一	猪野
田中 諭	猪野
天野喜兵衛	猪野
三屋 忠栄	猪野
横山 守一	猪野
多田 幸法	猪野
横山 勝男	猪野
廣瀬 福雄	猪野
天野 喜一	猪野
天野 稔	猪野
天野 好昭	猪野
梅田 誠一	猪野
梅田 達夫	猪野
多田 栄蔵	猪野
田中 孝	猪野
中村はる子	猪野
野理 五	猪野
林腰 輝男	猪野
三屋 竜雄	猪野
三屋 利雄	猪野
三屋 光雄	猪野
三屋美佐子	猪野
内田 育吾	猪野
日谷 隆伯	猪野
上山 愛子	猪野
多田 忠蔵	猪野
三屋さとえ	猪野
三屋 一馬	猪野

山尾 春雄	猪野
久保 金喜	本町四丁目
梶山 武雄	村岡町郡一丁目
梶山 隆	栄町四丁目
中山又右衛門	平泉寺
朝日印刷(株)	昭和町三丁目
土井 忠澄	旭町三丁目
筑紫 隆雄	大野市

(裏)

白山稚児神社御造営実行委員会

委員長 鳥山 肇

副委員長 中村 勝一

神主総代 上山 弥栄

神主総代 天野 吉六

委 員 天野喜兵衛

委 員 横山 一己

委 員 田中 諭

委 員 天野 喜一

委 員 天野 俊也

委 員 平泉 滋祥

執筆者 伊藤 茂夫

平成元年十月吉日

平成元年…一九八九年。

B-9 (白山稚児社造営記念碑)



白山稚児神社御造営記念碑

白山稚児神社神殿改築及び境内

整備事業は多田清翁の篤志に

よるところ多大である

ここに記念碑を建て謝意を表する

ものである

平成元年十月

B-10 (八幡神社由緒碑)



八幡神社由緒

この地は和名抄に毛屋郷の称がある
ことから、古代より開けていたこと
が知られるが、八幡神社がいつ創建
せられたかは不詳である。

古くより多くの人達の尊崇をあつめ
てきたことは確かであつて、明治九
年下毛屋・猪野毛屋を氏子区域とし
て村社に列せられ、大正三年には、
神饌幣帛をうける指定神社となった。

(裏)

御祭神	菅田別尊
祈年祭	四月五日
列祭	九月五日
	毛屋区

鳥居奉納者名	
三屋 晃	
笠松 輝	
佐野 正栄	
嶋田 勲	
中村 真一	
中村 重之助	
中村 次夫	
三屋 嘉栄	
三屋 公慈	
三屋 清一	
三屋 俊一	
三屋 弘	
三屋 嘉明	
猪野毛屋氏子一同	
三屋 一栄	旭町
昭和六十三年八月吉日	
昭和六十三年八月吉日	
昭和六十三年八月吉日	

B-11 勝山消防組頭幹部功労者碑



勝山消防組頭幹部功労者碑
(昭和六年八月二ヶ町村合併)

勝山町警防団五分団

中村孫兵衛	長谷川福太郎
三屋 勇	三屋与右門
中村仁右門	大沢 金吾
水谷 清松	伊藤 国男
藤木長兵衛	

勝山市消防団第三分団

鳥山 六忠
沢 保

(昭和二十九年九月十ヶ町村合併)

丸山 秀雄
 中村 稔
 加藤 実也
 小沢 昭男
 加藤喜代志
 松山 保雄
 上山 弥榮

世話人
 長谷川忠夫
 笠松 輝
 梅垣 敏雄
 加藤喜代志
 小沢 昭男
 上山 弥榮

二〇〇八年三月吉日建立

昭和六年…一九三一年。

B-12-14 (句碑)

(主藤素史句碑)



桜鳥ハしぐれてて来ずか来しあとか 素史

(松瀬青々句碑)



昼ゐれは桜鳥鳴きつ竹の中 青々

(裏)

昭和二十三年

雨声会 建立

勝山吟社

(伊藤柏翠句碑)



僧留守の仏を慕のしかと守る 伊藤柏翠

(裏)

平成癸未葉月

桜鳥会建立

B-15 (芭蕉句碑)



父母のしきりに恋し雉子の声 芭蕉

(別)

平成丙戌夏 勝山桜鳥の会

外有志一同 建立

施工 宝木石材

平成癸未…平成十五年。平成丙戌…平成十八年。

B-16 泰澄大師御生母廟



泰澄大師御生母廟

(裏)

塔 昭和三十四年

平泉 澄書之

昭和三十四年…一九五九年。

B-17 (八角塔)



寶前

奉寄進

泰澄大師

願主辻武左衛門尉良起

延宝八年

〔庚申〕三月十八日



延宝八年…一六八〇年。

B-18 遠慶宿縁



遠慶宿縁



B-20
(法華塔)

百世同穴之碑



B-19
百世同穴之碑



三界萬靈等

B-21
三界萬靈等

(側面)

觀乃地 六千部
烏明王 法華經
佛奠養

先師報円 亡父母
乃至法 利益
衆生者見門皆得福

願主温海慧珍叟
全身入塔石中蓮



B-22
(災害供養碑)

(裏)

為溺死男女八十二人
南無阿彌陀佛

一百回忌菩提再建之

享保十一丙午年二月廿九日山崩
文政八乙酉年二月 百回正當

享保十一丙午年…一七二六年。文政八乙酉年…一八二五年。

B-23 村社八幡神社



村社八幡神社

(裏)

享保十一年水害二百年記念

大正十四年九月建設

大正十四年…一九二五年。

B-24 時雨堂



時雨堂

B-25 (町村境界碑)



勝山

勝山町

猪野瀬村

B-28 記念碑



猪野瀬村役場跡

尋常科龍東小学校跡

記念碑

勝山市エコミュージアム、ふるさと元気博物館

猪野瀬町づくり推進協議会

(裏)

猪野瀬村役場(十ヶ村合併)の変遷

明治十七年七月 戸長役場を置く

町村制実施のため

明治二十二年四月

猪野瀬村役場に改称

昭和六年八月

勝山町と合併により廃止

尋常科龍東小学校の変遷

明治十年七月

龍東校設立

明治十三年四月

火災で全焼のため三校に分割

若猪野 猪野口 東校に

猪野、猪野毛屋、下毛屋 弘文校に

明治二十五年四月

三校統合して尋常科龍東小学校設立

明治二十八年四月

同校に農業補習学校を併設

明治二十九年六月

二ヶ年高等小学校併設

明治四十二年四月

高等科廃止

大正十二年四月

高等科併設し若猪野尋常高等小学校

となり、その後猪野瀬尋常高等小学校と改称

昭和六年八月

勝山町と合併に伴い同校を廃止し

成器男子尋常高等小学校若猪野分教場

となる。併わせて高等科廃止

昭和二十三年四月

成器南小学校として独立

昭和二十四年四月

成器南小学校廃止となり新設の

成器南小学校若猪野分教場となる

三年生以上は新設の成器南小学校に

一、二年生は成器南小学校若猪野分教場に残る

昭和三十二年四月

同横江地区編入

昭和三十四年四月

生徒数減少のため若猪野分教場を

閉じ全学年成器南小学校に

尚 昭和二十四年四月

町立猪野瀬公民館を同校内に置き昭和

三十四年以降も引き続き公民館として使用する

平成十六年十月建立

明治十七年…一八八四年。昭和六年…一九三一年。大正十二年…一九二三年。

3節 勝山地区

一地区内には人物碑28、忠魂碑5、一般碑53の計86基の碑が建てられている(表7参照)。藩主小笠原氏の墓碑が多いこともあり人物碑の占める割合が高い。碑は長山公園と神明神社に集中している。良賀墓は三谷の山中にあり本来は勝山地区には含まれないが、良賀が神宮寺第1世であるためこの地区に含めた。

忠魂碑の数は多いが勝山町独自の忠魂碑は見られない。他地区に比べ寺社が多いこともあり、一般碑としては御大典記念の碑を含め、灯籠形式の碑や萬霊塔の数が多いのが特徴である。道路整備や区画整理などの影響もあり碑の7割以上が公園や寺社の境内に建っている。碑の中では尊光寺境内の安田重兵衛らの寄進した元禄四年(二六九一)の石灯籠が最も古い。エコ・文化財に係わる碑は16基である。

表7 勝山地区石碑一覧

記号	番号	名 称	分類	場 所
C	52	百万本植林記念碑	一般	一本松大平小場
C	53	(毘沙門金灯籠)	一般	毘沙門境内
C	54	(元禄四年勝山神明社灯籠)	一般	神明神社境内
C	55	(享保六年勝山神明社灯籠)	一般	神明神社境内
C	56	(尊光寺灯籠)	一般	尊光寺境内
C	57	一心講創立記念碑	一般	長山公園内
C	58	校舎建築記念之碑	一般	市民会館横
C	59	(櫻馬会句碑)	一般	長山公園内
C	60	なでしこ塚	一般	国泰寺境内
C	61	(帰雲坊碑)	一般	国泰寺境内
C	62	(明覚寺句碑)	一般	明覚寺境内
C	63	(開善寺句碑)	一般	開善寺境内
C	64	御大典記念	一般	光明院境内
C	65	御大典記念	一般	神明神社境内
C	66	御大典記念	一般	神明神社境内
C	67	神馬	一般	神明神社境内
C	68	(蓮如五百回忌法要記念)	一般	法勝寺境内
C	69	蓮如上人遺蹟	一般	慶恵寺境内
C	70	聖徳太子之塔	一般	長山公園内
C	71	(勝山太子堂由来碑)	一般	長山公園内
C	72	(閻魔堂経塚)	一般	立石
C	73	(五千部成就碑)	一般	大蓮寺境内
C	74	石敢当	一般	元町
C	75	法界萬霊	一般	大蓮寺境内
C	76	三界万霊	一般	大蓮寺境内
C	77	三界萬霊	一般	義宣寺墓地
C	78	三界萬霊	一般	義宣寺境内
C	79	三界萬霊	一般	国泰寺境内
C	80	三界萬霊	一般	法栄寺境内
C	81	三界萬霊等	一般	伯立院境内
C	82	(天明飢饉供養碑 天保飢饉供養碑)	一般	北部第4公園内
C	83	(墓碑復興誌碑)	一般	北部第4公園内
C	84	(供養碑移転記念碑)	一般	北部第4公園内
C	85	四国西国巡拝供養塚	一般	伯立院境内
C	86	(帰国記念碑)	一般	長山公園内
C	87	木造如意輪観音菩薩坐像	文化財	沢町
C	88	毘沙門の金燈籠	文化財	本町
C	89	おたね坂	エコ町	本町
C	90	石坂	エコ町	本町
C	91	追手坂	エコ町	本町
C	92	神明坂	エコ町	本町
C	93	小姥坂	エコ町	本町
C	94	おたね坂と米屋横町	エコ町	本町
C	95	大蓮寺橋	エコ町	沢町
C	96	神宮寺橋	エコ町	元町
C	97	義宣寺橋	エコ町	沢町
C	98	石橋	エコ町	栄町
C	99	長山講武台跡	エコ町	長山公園内
C	100	東御門橋	エコ町	元町
C	101	万都通り	エコ町	本町
C	102	参溪(算啓)橋	エコ町	元町

記号	番号	名 称	分類	場 所
C	1	鶴野君紀功碑	人物	長山公園内
C	2	歌笛藤間氏塚	人物	長山公園内
C	3	秦先生遺徳碑	人物	長山公園内
C	4	木下義雄之碑	人物	長山公園内
C	5	陸軍歩兵嶋田弥市碑	人物	長山公園内
C	6	菊姫大神	人物	長山公園内
C	7	鶴澤よし女之碑	人物	長山公園内
C	8	石塚き以女伊藤里遍女碑	人物	長山公園内
C	9	呉石先生書道碑	人物	長山公園内
C	10	中村清蔵民之碑	人物	長山公園内
C	11	斎藤氏之碑	人物	神明神社境内
C	12	鈴木先生碑	人物	神明神社境内
C	13	長谷川先生功績碑	人物	成器西小敷地
C	14	魯斎秦先生之墓	人物	義宣寺墓地
C	15	(柴田義宣 勝成墓)	人物	義宣寺墓地
C	16	林季梁遺徳碑	人物	市民会館前
C	17	多田清翁像	人物	教育会館玄関
C	18	遺蹟之碑	人物	尊光寺墓地
C	19	(小笠原信胤墓)	人物	開善寺墓地
C	20	(小笠原貞信墓)	人物	開善寺墓地
C	21	(小笠原長貴・妻墓)	人物	開善寺墓地
C	22	(小笠原信房墓)	人物	開善寺墓地
C	23	(小笠原信辰墓)	人物	開善寺墓地
C	24	(小笠原長教・妻墓)	人物	開善寺墓地
C	25	(小笠原信成・妻墓)	人物	開善寺墓地
C	26	蓮如上人碑	人物	法勝寺境内
C	27	開基西順碑	人物	法勝寺境内
C	28	(良賀墓)	人物	三谷山中
C	29	哀悼之碑遷座記念	忠魂	長山公園内
C	30	招魂社	忠魂	長山公園内
C	31	忠霊塔	忠魂	義宣寺境内
C	32	(慰霊碑)	忠魂	義宣寺境内
C	33	忠魂碑	忠魂	浄願寺境内
C	34	勝山城址之碑	一般	市民会館公園
C	35	舊跡勝山藩成器堂跡	一般	商工会議所前
C	36	道標(白山道 中橋道)	一般	芳野2丁目
C	37	道標(平泉寺道)	一般	立石
C	38	道標(坂谷みち 平せし道)	一般	立石
C	39	(福祉会館中庭説明碑)	一般	福祉会館中庭
C	40	からくり時計	一般	図書館前
C	41	(大清水説明碑)	一般	河原町
C	42	(ふるさとの碑)	一般	芳野ヶ原
C	43	(市制四十周年記念碑)	一般	中央公園内
C	44	(タイムカプセル碑)	一般	中央公園内
C	45	置県百年記念碑	一般	中央公園内
C	46	(創立25周年記念碑)	一般	中央公園内
C	47	(ゆとり 創造宣言都市碑)	一般	市役所前
C	48	(創立十周年記念樹碑)	一般	長山公園内
C	49	(歩こう会体操会場碑) 会場	一般	長山公園内
C	50	(植樹記念碑)	一般	長山公園内
C	51	(即如巡教記念植樹碑)	一般	法勝寺境内

C-1 鶴野君紀功碑



鶴野君紀功碑

我南越勝山之地夙產煙草而用力斯業有功績者不遑如鶴野君其最著者也君名喜六大野郡勝山町人父曰澤谷喜兵衛母鶴野氏會母家道墜君出繼母家有所經紀家道復興君常憂地方烟艸業頹微不振海內不知其名苦辛經營有年廿九年遂改良刻煙草器精撰品製又往來北海道及諸縣廣其販路於是勝山烟艸之名噴噴焉廿五年選為福井縣煙草製造組合副組長廿六年全國業煙草者大會于東京欲有所議君推其副委員長廿八年烟草業為官營當時勝山烟草產額十五萬貫價八十萬金實為勝山煙草空前之盛矣而君功居多見命作業擔當人君以明治廿一年入軍籍累進步兵軍曹日清之役有功叙功七級賜金鵒勳章日露之役以後備兵從軍戰滿洲之野負傷尋癒以功叙勳七等功六級賜青色桐葉章及金鵒勳章頃日舊業烟草者胥謀欲樹碑以傳其功請文於余余與君同鄉義不得辭乃叙其概略系以銘銘曰

幼喪所恃 備嘗苦辛 長業烟草 家聲興振
斯業維新 武勳不磨 功勒貞珉

(裏)

明治四十年八月 西脇靜謨并書及篆額

發起人

川崎善之助

竹田 太市

藤田 三吉

島田弥太郎

竹田 久七

別田與三郎

土田 金作

北川 庄藏

山岸伊之助

荒井弥右衛門

【解説】

鶴野喜六は勝山町の製糸業とならぶ煙草産業の発展に多大な功績を残した人物である。鶴野工場は勝山の五代煙草製造工場の一つに数えられ、勝山煙草の全盛期を支えた。明治三十五年（一九〇二）には福井縣煙草製造組合副組長に就いた。

C-2 歌笛藤間氏塚



歌笛藤間氏塚

(側面)

有志連

(裏)

明治貳拾貳歲四月建之



秦勤伯先生遺德碑

從三位勲二等醫學博士男爵佐藤進篆額

前東京帝國大李文科大學講師從七位黒木安雄撰拜書

越之勝山有吉家名醫曰秦氏秦氏第七世曰魯仙翁醫而儒實為中興祖天保中獻書納賢創設藩學曰成器堂先賢龜田綾瀨安井息軒等皆有刻石文焉魯翁之子曰勤有先生克承箕裘紹述有光先生歿後後進追慕相謀樹石表彰遺德來徵予文按先生諱親精小字鉄太郎通稱勤有幼奉庭訓年甫十五遊京師學儒於梅田雲濱脩醫於百一郎嘉永五年歸鄉任藩侍醫時年二十明年侍瑞龍公於江戸邸退食脩道干杉亨二安政三年祇役從遊杉田玄瑞于江戸請益佐藤尚中于佐倉有所大得蓋二杉一藤皆洋法名醫也當是時洋法未熾學者未夥而先生虛己謀新俛焉不懈人稱其明焉安政六年始解屍於勝山又遭疫癘屢作輒挺身赴急人稱其勇焉文久二年魯翁告老先生晉為醫官長且掌成器堂學政於是孜孜育英成就人材至明治四年藩廢而罷嗚呼秦氏之於成器堂也父子一德終始濟美後進追慕良有以也先是戊辰更革之際先生以待醫兼監正職參與藩政而議多与志乖乃解印退居專任刀圭然若地方醫會若私設病院以至墾田養蚕銀行會社等經始之事概皆待先生

攘臂焉明治四十一年十二月十六日終壽七十六元配林氏無子繼室木下氏生男勉造承嗣先生喜周急平生事之關公利者盡心捐貲助其必成人多德之而先生如不與焉治家朴實率由祖法遇諸弟姪則極友愛分門班財多與寡取故秦氏宗支瓜瓞益張而勉造立身列醫學博士現任北海道帝國大學醫學部長吁嗟秦氏之祚有末可測者焉予乃叙之令刻于石以續綾瀨息軒之文、

大正十年辛酉九月建

【解説】

勤有は天保四年（一八三三）に秦魯齋の長男として生まれた。江戸で洋医学を学び帰藩後、大野郡では初めての人体解剖を行った。父と同様藩医を勤め維新後は私立秦病院を創設した。明治九年（一八七六）に組織した医会は県内医会の嚆矢となった。勝山の産業の発展にも貢献すること大で明治四十一年に没した。碑は大正十年（一九二一）に建設された。



木下義雄之碑

君福井縣大野郡勝山人家世士族幼入藩校勉學
踰衆明治四年為藩文學助教後辭職學於本縣師
範學校業就轉勤各地十年九月為勝山成器小學
校長兼訓導以身率子弟子弟皆樂受業十九年為
縣學務屬後轉大野郡視學為教育支會副會長二
十七年遷郡書記為第二課長三十三年二月以病
辭職是歲八月四日歿距生嘉永二年正月二十四
日五十一歲君在職三十餘年以恪勤受賞者前後
十數回歿日門人故舊哀悼切至咸曰今世學識其
人多矣但誠實接物循々不倦專以興隆郡學自任
如君者蓋不多見也相謀建石紀其德來請予文予、

知君者不可辭也因叙其概

前福井縣參事官從六位勲五等加藤寛太郎額

福井縣高等女學校長山口透撰

吳石 西脇 静書

(裏)

建設委員 長谷川末藏 中村吉石工門

常葉樵太郎 村岡 普攝

嶋田 階介 久保 仁吉

横田 矩規 小林平三郎

近藤 欣平 石上茂兵衛

明治三十四年七月

【解説】

木下義雄は士族出身で嘉永二年（一八四九）に勝山町に生まれる。成器堂に
学びその後は三〇余年を教員として過ごした。教授法の改良に勤め文部省より
表彰を受ける事が一〇数回に及んだ。明治三十三年（一九〇〇）に没した。

C15 陸軍歩兵嶋田彌市碑



陸軍歩兵嶋田彌市碑

戦必勝攻必取所以使前軍無後顧之慮者自非守備之警衛為之完全則不能矣明治甲午征清之役銳鋒所向敵兵逡巡數旬而攻畧遼東諸城其所以未嘗一跌者占領地守備之功蓋與有力焉當時氏在後備軍轉勤於平壤以北諸城之守備隊櫛風沐雨具嘗艱楚偶為疫魔所襲歸養於仁川吞怨竟斃於病享年三十又六歿後依戰役之功遺孤拜受一時金二百八十金扶助料每年三十金恩賜之榮不亦太平干茲閭里舊知者追懷氏平素之俠勇與從征之勞績相謀建碑以傳於後代云

明治三十二年五月建設委員總代 長谷川末藏撰書
(裏)

建設委員

長谷川末藏 松井仁一郎 川崎善之助 枡家 嘉吉

松井松之助 柳原 彌市 久保 仁吉 石畝喜兵エ
竹田 久吉 山崎 茂助 山田利兵エ 竹田久右エ門
森 庄藏 片田平三郎 瀧原伊三郎

【解説】

嶋田弥市は安政六年（一八五九）勝山町に生まれた。町から出征した二九名の兵士とともに日清戦争に従軍した。しかし病に倒れ明治二十八年（一八九五）仁川の病院で療養中に亡くなった。

C16 菊姫大神

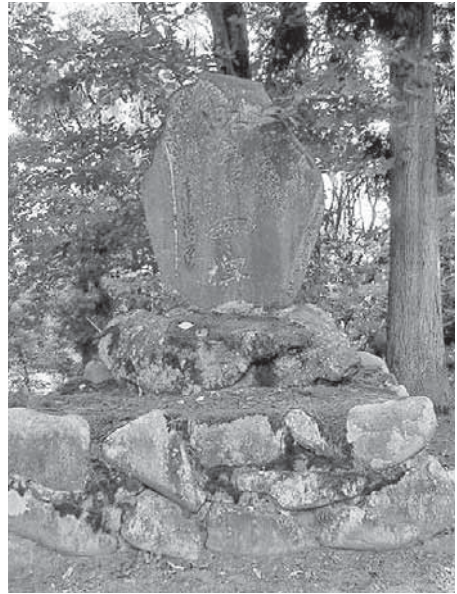


菊姫大神

(側面)

昭和二十八巳年十一月建之
昭和二十八巳年…一九五三年。

C17 鶴澤よし女之碑



鶴澤よし女之碑

法師位現芳書

(側面)

明治三十有三稔十月建之

(裏)

發 森田 五一 世 嶋ノ森吉太郎

中村 利市 谷崎 三作

笠井 久吉 前田吉右エ門

起 岡山仁太郎 奥山 清蔵

竹澤 岩吉 話 木村 伊助

森口 芳松 野根 清蔵

山内藤兵衛 嶋田千恵松

人 角吉郎兵衛 人 藤間 兼吉

白木 竹松

斎藤與三松

明治三十三年…一九〇〇年。

C18 石塚き以女・伊藤里遍女碑



石塚き以女・伊藤里遍女碑

石塚き以伊藤里遍の二女は明治二十四年病没其始め其病に罹るや共に重患遂に膏肓に入り自ら起つ可らざる

白木 柳

高須 勇吉

吉村吉太郎

高須幸太郎

室町 杣

白木 駒次

野邊 太助

勝浦 兼吉

を知る主治医其情を察し説くに遺體解剖の事を以てす二女神色自若曰く是妾等の請はんと欲する所なりと日ならずして冥す乃其言を踐み大に斯道を裨益せり嗚呼二女の如きは実に後世に傳ふべき者以て碑を建つと云
川地由良撰 長谷川傳蔵書

(裏)

明治四拾壹年七月建設

舊勝山醫師組合

組長 秦 勤有

副長 高澤 彰

幹事 岡部 剛雄

幹事 池田 昭

賛助 高澤 透

梅田 喜市

平泉 泰輔

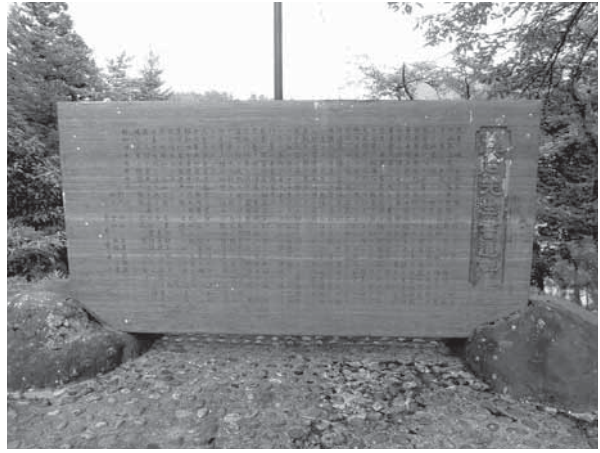
加藤音五郎

平泉 泰雄

【解説】

石塚きい・伊藤りえの二人は製糸業の先進県である信州(長野県)から技術指導者として招かれた。慣れない土地と高湿の風土が災いしたのか肺結核に冒され、明治二十四年(一八九一)に亡くなった。遺体は二人の遺言により解剖に附されることになり、これが勝山町医師の人体解剖第2例目となった。

C-9 吳石先生書道碑



吳石先生書道碑

先生 姓ハ西脇名ハ静 吳石ハ其ノ號テアル 明治十二年三月八日福井縣勝山町ニ生レタ 梅檀ハ二葉ヨリ香シク五歳ノトキ篠座明神ノ大幟ヲ揮毫シ人驚イテ神童ト讃ヘタ 郷里ノ成器小學校ヨリ福井縣師範學校ニ入り卒業ノ翌年早クモ習字ノ文檢ニ登第シ福井高等女學校ニ奉職シタ 次イテ東京府青山師範學校兼府立第三高等女學校教諭トナリ後ニ東京商科大學ニ出講シ永ク育英ノ鞭ヲ執ツタ 晩年ニハ文化書道會ヲ宰シテ大イニ書道ノ普及發展ニ努メタ 先生ハ幕末ノ書家卷菱湖ヲ繼ク村田海石ヲ師トスル十七歳ノ時海石ノ臨摹ヲ携ヘ初メテ其ノ門ヲ叩クヤ

見テ驚キ 吳郡ノ石打テハ善ク鳴ル ノ故事ニ取リ號ヲ吳石ト授ケテ大イニ古碑帖ノ研鑽ヲ勤奨シタ 是ヨリ心ヲ茲ニ潜メ王羲之ヲ學ヒ趙子昂ニ則リ將タ孫過庭ニ得テ造詣深キヲ加ヘタカ更ニ書論ヲ日下部鳴鶴ニ叩キ進ンテ常ニ漢籍ヲ涉獵シ漢詩ニモ秀テルニ至ツタ 先生ノ勉強タル揮灑ノ手本一百有餘就中文部省書方手本乙種ノ名聲ハ一世ニ鳴響キ教育界ニ貢獻スル所カ多カッタ 先生天稟ノ資ニ加フルニ切磨ノ効ヲ以テシ神韻縹渺ノ格調ヲ具フルニ至ツテハ正ニ出藍ノ誉ニシテ先師ニ應ヘ吳石ノ名ヲ全ウシタルモノ其ノ書風ヲ慕ウテ門ニ集ル弟子幾百千カ 先生ハ風容端麗人格高潔名利ヲ求メス世俗ニ媚ヒス常ニ養フ所ハ清高ノ氣節娛ム物ハ花鳥風月テアツタ前庭ハ四季ニ花アリ禽鳥來リ鳴ク自ラ雅筇ヲ携ヘテ海内ヲ行キ禹域ニ遊フコト再度奚囊益々溢レテハ詩トナリ畫トナリ臨池ノ技ハ入木ノ精妙ヲ極メ謂ハユル詩書畫三絶ノ妙境ハ往年ノ頼山陽貫名崧翁ニモ競フモノテアツタ 先生カ多年書道教育ニ盡瘁サレタ功績ニヨリ昭和四十二年十一月ニハ勲四等ニ叙シ端寶章ヲ賜ハツタカ昭和四十五年十一月七日九十二歳ノ長壽ヲ全ウシテ東京杉並上高井戸ノ邸ニ溘逝セラルルヤ更ニ從五位ヲ追贈セラレタ 此ノ地勝山ノ長山公園ハ先生カ幼年時代ヨク遊ハレタ最モ由縁ノ深い地テアル 吾等親シク薰陶ヲ受ケ其ノ人格ト書風トヲ景慕スル者相謀リテココニ碑ヲ建テ先生ノ偉績ヲ顕彰シ後昆ニ傳ヘント希フ

昭和四十七年四月 門人 城山 土屋敏雄 撰

嗣子 雲石 西脇 安書

景 吳 會 建之

【解説】

西脇静（吳石）は勝山が生んだ日本を代表する書家である。明治十二年（一八七九）に士族の子として生まれ、幼少より書に天賦の才能を発揮し大阪に出て村田海石に師事し奥儀を窮めた。大正六年（一九一七）には文部省の委嘱を受け国定書方手本を揮毫した。晩年は文化書道会を主宰し昭和四十五年（一九七〇）に没した。

C-10 中村清蔵氏之碑



中村清藏氏之碑

(側面)

於時昭和四年十一月有志相謀相議地■閉觀音堂学(営)刻■面
就中村清藏氏懇願借地氏相■師■■■人深此■■■可
無■■于茲昭和六年早春起工同五月本堂建造■■■■同七
■堂遷座■遂内意年モ

而■碑以伝其徳如斯

昭和八年四月

願主 書 起工 撰

捏■併■

(裏)

土谷源三郎	幾松忠三郎	若林	てる
瀧本善三郎	山 辰次郎	松村	はま
土谷与三五郎	小川 甚助	藤堂	すて
勝浦 金藏	和田 まさ	加藤	さと
松井 透雄	荒井 なつ	河野	こま
松山正太郎	野辺 せつ	長谷川	さく
福田重太郎	石原 せつ	高須	りき
槌谷 長七	富田 はる	徳田	かよ
塩見 長松	清水 はま	蓬生	太市
	角 たま	高本	わき

【解説】

中村清藏は猿倉村の生まれで昭和二十一年(一九四六)から同二十六年まで村岡村の村長を勤めた。碑は長山に観音堂を建てるにあたり土地を寄進した功績により建てられた。

C11 齊藤氏之碑



齊藤氏之碑

海軍大將正三位大勲位功一級伯爵東郷平八郎題額

勝山町長兼消防組頭勲七等齋藤治兵衛君舊勝山藩豪族小林平三郎氏第三子也出嗣齋藤家代代皆以治兵衛為名君亦襲焉為人謹厚蘊籍與物無所忤惟喜行公益事蓋根于无性也弘化初藩主小笠原侯編消防組五部以五色為部號君祖考任其黒部組頭至君三吾襲職及改編制為以呂波三部君頭取明治二十七年福井縣革新消防組織授君呂組頭職焉蓋齋藤家代代竭力恰消防名聞鄉黨於此君益厲精人皆信賴矣君奉公務不啻消防役如恰地方殖産業也日本赤十字社也大日本武徳會也町政治也或為組合支長及幹事或為議員又名譽町長執事至誠能稱其職明治三十七八年戰役有功被授勲七等青色桐葉章其偉行可傳者蓋不可舉而數也君今歲齡六十有六康健矍鑠處繁務不毫屈撓可謂壽高而行高者于茲消防隊員

等與同志者〔深〕德之欲樹石于神明社内以傳令名来乞余文古有慕循吏建
生祠祭文之者謝勞慰生蓋莫切于此今諸子為君建生碑其意與之相符自
非德之入人也深者安能到此乎乃由其狀鋪叙事歷云

明治四十一年一月 陸軍歩兵少佐正五位勲四等柳生俊久撰
七十六翁関明信書

(裏)

發起人 勝山消防小頭

中村利三郎

加藤斎太郎

伊藤 捨吉

枅家 嘉吉

河野 金作

北内喜太郎

藤田 與市

松村 岩吉

後 任

裕 権三郎

後 任

荒井仁右門

彫刻人

奥田 忠吉

(別碑)

第一部

田中 福松

根津 三六

藤澤 勇吉

松田 藤市

南部仁太郎

室太 三郎

三谷仁兵衛

矢戸新太郎

森 小與七

笠松 仁作

吉村 福松

加納 三作

堀 喜之助

竹田 嘉吉

織田吉太郎

滝本 有光

山田清太郎

牧野 兼吉

竹田 藤吉

深川 太吉

加藤 半七

長谷川斎市

片山平次郎

近江清五郎

石塚治三郎

藤嶋清太郎

竹内藤兵衛

比良安太郎

福田 卯助

柳原 藤吉

細川作兵衛

吉岡 源蔵

大久保捨松

堀 定六

柳原 與七

森下 太市

森下喜太郎

竹田 久吉

木村 勇吉

島田五三郎

島田 外吉

廣瀬由右門

妙島 梅吉

比良 弥市

柳原 百助

笠松 脇蔵

毛登利伊三吉

本田 久蔵

安田 綱吉

猪野清兵衛

松下 末吉

本田 久松

笠松 孫市

細野 清作

織田喜右門

小林小次郎

原 五市

川崎 三作

藤澤 石松

藤澤與三郎

太田市之助

中村伊三郎

齊藤己之助

伊藤 與市

友安太四郎

熊木 奥松

中村 利平

安田 藤市

第二部

第三部

島田 末吉

梶繩 弥市

吉田伊三郎

斎藤佐喜蔵

木村太四郎

荒井仁右門

伊藤 與吉

川島 浅吉

原 己與吉

太田茂右門

西内 五作

織田 利八

中村 松蔵

大森清太郎

吉村吉五郎

岡崎 末吉

谷崎 仁作

杉平 仁作

岩佐與三松

壁本長之助

三屋 東一

藤村 與市

勝見 岩吉

横山伊三郎

河本 與吉

矢戸 喜市

大久保宇吉

酒井 三松

植原 鐵蔵

金田與三吉

松村 三吉

中村 五市

和田 定吉

片田 常吉

伊藤石之助

佐々木末吉

黒原伊三郎

飯田 捨吉

黒田清右門

川島太郎吉

伊藤善五郎

山本 藤市

松原 善助

中村 留吉

小玉 清吉

山田 喜市

角 久吉

太田 茂吉

上山 留吉

槌谷 長七

杉平 捨松

太田 茂吉

第四部

高津五三郎

安田 弥市

石畝平次郎

吉峰 與市

島田 捨吉

寺井 伊作

中村 捨吉

片山久太郎

河野 由松

木下喜太郎

澤田栄太郎

島田竹次郎

松原 駒吉

中村 外吉

河野半之助

木下政五郎

矢戸 平蔵

布川 宇市

柳原 藤蔵

島田宇多吉

前川 茂市

加藤 留吉

山村興三松

伊藤 宇吉

笠松 茂七

玉木 與市

岡田 欽治

松村 蘆

村中 由松

織田 留吉

大村由三郎

太田吉太郎

丸山 五作

谷口與三吉

高柳 斎吉

浅見喜三郎

笠松 又吉

滝川 末吉

松井秋太郎

島田万次郎

【解説】

斎藤治兵衛は小林平三郎の三男として天保十三年（一八四二）勝山町に生まれた。斎藤遊子の養子となり養父の後を受けて製糸を中心とした町の殖産興業に尽力。明治二十七年（一八九四）には祖父らしい勤めてきた勝山消防組頭に就き、また同三十四年以降通算一二年にわたり勝山町長も勤めた。碑は消防組により建設された。明治四十五年没。



鈴木先生碑

從二位勲一等子爵渡邊昇書（刻印）

翁姓鈴木名良直稱定七世仕舊勝山藩父稱岩七翁其第二子也以天保四年十一月廿一日生自幼好武技年甫九歲就藩擊劍師範波多野氏學劍術十二歲叩舊鯖江藩擊劍師範西島氏門淹留二日與其門弟試劍勝山藩士與他藩異派者試技以翁爲嚆矢弘化四年負笈赴江都就麾下士男谷精一郎修業三年嘉永五年應美濃八幡藩聘往教劍術居四閱月去復赴江都入齋藤彌九郎門修其業又三年安政二年十月歸鄉爲藩劍術師範明年從藩侯祇役江都邸暇則造齋藤氏研鍊其技遂極其精水戸藩聞之求聘翁有故而辭萬延元季九月藩侯嘉其術精鍊賜祿若干石別成家參與藩政廢藩之後用力於地方民事凡廿餘年官四與金員以慰其勞先是宮内省告郡長傳用翁爲宮中擊劍教授方意辭而不起三十四年十二月自武德會總裁小松

宮親王賜第六回武德會演武場中其術尤精練證書翁今年七十三老而益壯猶能教鄉青年而不倦云頃日勝山人士謀樹碑以傳翁名于不朽請予銘之因憶吾舊藩福井嘗有劍術師範五家而皆墨守傳家舊法未有以長劍擊刺新法教子弟者嘉永年間齋藤彌九郎息新太郎與翁及赤根才助徒來福井試技衆始知長劍爲利於是藩遣鰐淵河邨諸士入齋藤門學其法歸教藩士子弟焉抑翁九歲初學劍十二歲至他藩試技已可謂偉矣而以小藩子弟夙入都門專修其業又與新太郎徒來大藩較技長短何其好武之篤也則今日吾鄉此技之盛翁卒先開誘之功亦不可泯也因不辭而爲之銘々曰

翁於舊藩 公侯干城 尤善擊劍 海内知名 時際維新
用力民事 老健矍鑠 武技所致

明治三十八年春三月 福井富田厚積撰 西脇靜書

（裏）

發起人

狭場順一郎 西脇 糺 笠川 継孝

世話人

高澤 透 五十嵐直好 中村吉右衛門 加藤斎太郎

中村嘉太郎 南部 直正 村岡 定二 中村 利市

柳町助太郎 郡谷小三郎 松井利右衛門 森 常行

青木庄太郎 齋藤治兵衛 島田 憲平 比良 野直

関源右衛門

【解説】

鈴木定七は天保四年（一八三三）生まれで幼少より武芸に秀で、その後江戸で修業を重ねる事二度に及んだ。齋藤弥九郎門では千葉周作などと並ぶ剣士と称された。帰藩後は剣術指南となり維新以後は勝山の人材育成に一生を捧げた。明治三十九年（一九〇六）没。

C-13 長谷川先生功績碑



長谷川先生功績碑

貴族院議員正四位勲三等子爵柳生俊久篆額

長谷川先生名ハ傳藏初メ郡谷末藏ト稱セラレシカ後養家ノ名ヲ襲ハ
ル夙ニ教育ニ志シ明治十三年福井師範學校卒業ノ後三国町及ヒ福井
市ノ小學校訓導ヲ歷テ同廿三年成器小學校訓導ニ轉シ同三十年校長
ヲ兼ねラル同校ニ勤務セラル、ルコト茲ニ三十有餘年終始一貫諄々ト
シテ倦マス一意専心至誠ヲ以テ子弟ノ薰陶ニ努ムルト共ニ内校舎ヲ
拡張シテ諸般ノ設備ヨ整ヘ外町教育會ヲ組織シテ社会教育ニ力メ青
年団ヲ起シテ其ノ指導ニ任セラル今ヤ教ヲ受ケシモノ實ニ三千有餘
ニ及ヘリ先生今茲齡六十而モ意氣益々旺盛ニシテ壯者ヲ凌キ一身ヲ
犠牲ニ供シテ孜々育英ノ事ニ従ハル徳化普及シ功績顯著ナリ故ヲ以
テ曩ニ縣ノ選奨ヲ受ケラレ頃日又賞勲局ヨリ銀盃ヲ賜ハル是レ獨リ
先生ノ名譽タルノミナラス又以テ我カ郷ノ光榮ト謂フヘシ茲ニ同志
相謀リ碑ヲ立テ、先生ノ徳ヲ頌シ其ノ偉績ヲ不朽ニ傳フ

大正十年十月 長谷川先生功績記念會同人撰 西脇 静書

【解説】

長谷川傳藏は文久二年（一八六二）下後の郡谷家に生まれ、明治二十一年（一八八八）に長谷川家の養子となった。長年にわたり学校教育に携わりその間、成器小学校および男子校の校長を勤めた。碑は大正十年（一九二一）の建設。昭和十一年（一九三六）の立町二百五十年祭は彼の趣意書により実現した。同十九年没。

C-14 魯齋秦先生之墓



魯齋秦先生之墓

文久癸亥勝山醫官魯仙秦翁歿其子剛偶在余塾越明年三月具状哀哭以告曰剛輩既當大戚罔極之恩其謂之何但是窀穸之事未飾長兄勤有命剛乞先生大筆以不朽其事庶幾以未滅其罪願先生憫恤之謹布腹心非所敢望也時余新遷白川令吏事執掌而心悲其意惻然許之乃據狀序之曰秦氏之先出於豐之大友氏大友氏既亡有諱親鄉者謂其子親貞曰世既治矣貧賤行仁莫醫若焉汝其勉之遂改業醫大友氏鎮西著姓其族或稱波

多野秦字邦訓與波多野同寬永中因改氏秦蓋慮辱其先也至子直照益精其業小笠原侯聘爲侍醫遂徙於越之勝山曾孫諱親精舉一子出嗣外舅溝口氏乃養福井醫員澤氏之子敬直爲嗣娶某氏生男是爲魯仙翁諱履字中正稱魯齋十歲失怙例削秩別支六口俸文政乙酉年十六舉中士賜十二口俸戊子乞暇學平安問道於田中履堂受醫術於吉益北洲及緒方順節居二年去游攝及讚後復還京師前後五年其所師事皆一時之撰也業成而歸天保癸巳賜祿六十石丙申再遊於京師三年業益進戊戌加賜十石己亥冬瑞龍公病於江戶邸召翁侍疾時病勢危篤百方不效明年二月公薨嗣君仍褒其勤賜物有品辛丑今公患痘殊逆翁侍療甚勤殆廢寢食公遂愈賜章服數稱爾後公東勤必從一歲公成於浪華翁偶不從既而公病急通召翁不日而愈其見親信如此翁既精醫事傍喜文武天保中獻書數十筐及金數百兩請建學校公嘉納命掌營業之事翁大喜盡力經營甲辰功竣堂廡煥然庫寮繞之自他射埒炮場藥圃莫不具備人無貴賤

各從其所好脩業於其中國俗爲之一變名曰成器堂公賞其功加

秩三十石合食百石命世掌學政嘉永中有故減群臣俸三年并

收所假子弟習騎之馬而鬻之翁痛士子廢騎法

獻餼馬金而贖之凡士人有疾者施藥療之如此者亦三年

公嘉尚賜劉俊畫軸二幅晚年賦薄世事屢請致仕不許文久壬戌復申前請獲允乃自號魯仙不復省人事讀書圍棋放浪於溪山之間唯意所適人亦從而僊之曰如先生可謂名不負實矣明年九月病歿於家享年五十有四葬於城北義宣寺之塋翁性質直鄙言絕於口邪志斷於心其與人居默默若不能言者親疏貴賤待之如一晚節尤儉而務於施與有貧不能自存者輒調濟之無所吝惜以故人益愛而尊之其於醫事無所不研究乞治者戶外履常滿若死其家相與語曰服先生之藥猶且不治此亦命焉耳娶伴氏生八男一女長子勤有承家學洋醫法亦有能名次發善刀法騎術別開一房賜八口俸次朴亦學洋醫法次虎講象謂學於長崎次熊天次剛亦有志行次除次循猶少在

家女適田原親方翁治家有法諸子皆能樹立駸駸有

不可量之慶人以爲積善之應銘曰

人亦有言 上醫醫國 卓矣秦翁 既盡其職 又文又武 一邦矜式
舊俗以變 人新其德 惟天福善 莫貳莫忒 其慶伊何
子孫翼翼

元治紀元歲在甲子秋九月 日南 安井 衡 撰

江戶 川上 由 書

〔参考〕 両脇に2基

明治二己巳年

秋七月

伴氏之墓

伴五兵衛之二女 秦魯齋之孀名 以久依遺言合 葬於茲矣

〔明治二十有五年壬辰秋於東京寓舍 後學 林 覺 謹書〕

元治紀元歲：一八六四年。 明治二己巳：一八六九年。

【解説】

秦魯齋は文化七年（一八一〇）福井医官澤卓庵の子として勝山に生まれた。藩医として七代長貴、八代長守に仕え、その信頼は絶大であった。医学は勿論文武全般に精通しており、林毛川の藩政改革の一環たる人材育成のための成器堂建設に協力した。魯齋は学頭として自らその経営に当たった。文久三年（一八六三）没。

C-15 (柴田義宣・勝成墓)



義宣寺殿 傑山玄英大居士

神儀

(裏)

勝成院殿蘭香宗英大居士

柴田 監物義宣
蘭 柴田三左衛門勝成

墓

C-16 林季梁遺德碑



林季梁遺德碑

前勝山藩知事 小笠原長守 額

林大夫毛川翁之觀於毛谷川也喟然嘆曰源泉混混不舍晝夜灌溉城邑民被其澤水之無情而有功如此人豈可不如水乎遂以毛川爲號焉翁學主實用博聞強識其所交游概一時之選如頼山陽龜田綾瀨諸先皆以等輩遇之初藩主長守公齒猶幼委政重臣當時昌平日久海內儉安翁慨然以振士氣爲任藩醫秦魯齋讀書好義上言請興學校獻書數十種及金一百兩翁大喜使魯齋擔其事魯齋拮据經營募財鳩工已成名曰成器堂堂煥然庫寮繞之又建勝山文庫以集內外典籍及弓馬槍劍銃砲丸文武教場莫不具備焉於是士風一變曉然知所嚮其於民政儲米粟以備凶荒修堤防以慮水潦興物產以勸農商諸如是之類不一而足士之歷游北道者必過訪其藩士民翕然稱爲良大夫後有故辭職安政五年戊午七月十二日卒於家享年五十有八翁諱棟字季梁初名崑三郎後更主稅晚稱芥藏父諱某世仕勝山藩列大夫翁承父襲職參藩政二十餘年其爲治嚴而不苛簡而克明識人能用先是勝山多產烟草邑民資以衣食者居半而濫製粗造奸商私其利聲價頓墜翁深憂之命藩士水谷健十郎木原佗助等釐革其弊淘汰精覈其譽終復迄今煙草之利遍西北諸州其興利除害機宜得當率此類也翁嘗築毛川書室自題其壁曰源流不甚遠而一城不可無此水足以當名河之稱矣名聲不甚高而一鄉不可無此人足以齒名士之列矣其友野田笛浦亦嘗有言季梁史傳之精文章之雄加之天資骭髀不以辭色假人議論激昂磯而愈出俾人畏而不敢近迨其議罷論畢天宇新霽風月如洗唯見其灑落可愛耳吁可以知其人矣今茲己丑邑人懼翁遺績久而或歸泯滅也欲勒之貞石以圖不朽來徵余文乃叙其梗槩如此蓋距翁之死三十餘季云明治廿二年四月元老院議官兼文科大學教授文學博士從四位勲五等 重野 安繹 撰

男 林 陳謹書

(裏)

贈正五位

大正十三年二月十一日

【解説】

林毛川は享和元年（一八〇一）代々家老職を勤めた林家の三男として生まれた。江戸詰めの際ら昌平坂学問所に学び当時一流の学者と親交を結んだ。天保十一年（一八四〇）家老兼勝手方頭取となり勝山藩の藩政改革に努めた。成器堂の開設や、長山に講武台（軍事訓練場）を造成したほか、勝山煙草を藩専売とするなど、その功績は枚挙にいとまがない。しかし安政二年（一八五五）八代長守により突如罷免され同五年没。元成器女子校地内にあった。



多田清翁像

勝山市名誉市民故多田清翁は、明治三十八年七月二十七日勝山市荒土町新保に生まれ、幼少にして郷里を離れて大阪に移られた。

翁は、青雲の志を抱き、昭和六年十一月弱冠二十六歳にして相互タクシー株式会社を創立、その後は木炭タクシーの発明や大量製炭法の発案などの創意工夫と秀でた商才によって、幾多の困難を克服しながら大阪相互・京都相互・神戸相互タクシーなどを相次いで創業し、これらすべてを成功させ関西運輸会の雄としての地位を確立された。

翁は、全国各地の福祉施設や医療施設へ多額の寄附を続け、その貢献に対して紺綬褒章を受けられること二十数回にも及んだ。

また、翁は「私の今日あるは、亡き父母の深い愛情と先祖代々を生かさせていただいた故郷の恩恵である」という人生哲学を持たれ、強く郷土を愛された。特に、郷土の教育福祉の向上に意を注がれ、昭和四十九年三月の市教育福祉会館建設資金をはじめ、多田育英資金の創設、その他数々の事業にも巨額の寄付をされるなど、勝山市のために絶大な功績を残された。そのため、昭和五十一年十月教育福祉会館落成記念式典の席上、勝山市名誉市民第一号に推挙し、この篤志を讃えたのである。

さらに翁は、父母祖先の地勝山市及び福井県の発展を願い大仏建立を発心、相互不動産株式会社を創立し昭和六十二年五月全国に名を覇し千古に輝く越前大仏を建立した。その後ホテルや室内プールなどを次々と建設され、平成四年七月には、勝山城博物館を完成された。

翁の父祖の地に対する崇高な愛郷心と未来へかける情熱は、勝山全市民ひとしく感謝するところである。

翁は平成三年七月十九日享年八十五歳にて没せられた。

翁の敬虔な愛郷心と深大な慈愛に対し「感謝の真心」をもって、ここに多田清翁の像を建立できたことは、勝山全市民の大きな喜びである。

平成四年十月吉日

勝山市長 今井三右衛門

明治三十八年…一九〇五年。青雲の志…立身出世しようとする功名心。昭和六年…一九三二年。篤志…とくし。慈善心。

C-18 遺績之碑



遺績之碑

舊勝山藩主従四位子爵小笠原勁一閣下題額
君姓藤田名九兵衛生於勝山町中后區容貌魁偉
天資溫順事父母至孝常不失和氣婉容又篤信佛
法幼而承父祖業從工匠事砌磋不倦其技大進有
後世可畏之目及壯鑑時勢進步奮然決意遊帝京
居數歲修和洋建築術究其蘊奧既而歸閭研鑽尚
不止人不其所造詣云君勇於義其從工事也不爭
錙銖之利以示所謂請負業者之範故名聲大揚徒
弟雲集爭受其熏陶近時土木日盛而神祠佛閣及
成器男女兩小學校町役場其他公私之建築概莫
不成君請負設計圖案嗟呼君實可謂斯界巨匠矣
大正五年臘月三十日病而没年六十又四舊知徒
弟追慕不已相謀建碑屬余表其墓以闡懿德

(裏)

大正六年二月

成器男子小學校長	長谷川伝蔵	撰
成器女子小學校長	三竹 勝造	書
伊藤五右エ門	賛	辰巳 宇吉
伊藤五良吉	小林幸次郎	
伊藤伊之助	太田太良吉	
三屋 東一	助	牧野 兼吉
浜田喜太郎	藤田 仁平	
伊藤 弥六	藤田 久吉	
角 久吉	員	山田 清造
山 金六	辰巳吉太郎	
田中運太郎	平泉 岩吉	

【解説】

碑は藤田九兵衛の功績を讃え大正六年（一九一七）に建設された。成器男女両小学校、町役場など町の多くの設計を手掛けた。

C-19 (小笠原信胤墓)



竜台院殿賢巖義哲大居士神儀

(裏)

延享二乙丑

六月二十九日

延享二乙丑…一七四五年。

【解説】

開善寺は小笠原氏の菩提寺であり境内には小笠原家廟所がある。廟所には初代貞信から八代長守（一部その妻含）の墓、家族墓が建ち、史跡として市の文化財の指定を受けている。

C-20 (小笠原貞信墓)



判読不能

真光院殿鉄梁一玄大居士

(裏)

正徳四歳甲午六月十七日

C-21 (小笠原長貴・妻墓)



判読不能

瑞竜院殿前相州刺史春沢宗仁大居士

法臺院殿覺蓮妙品大姉

(側面)

瑞法 天保十一庚子二月廿九日

慶應四戊辰四月廿八日

從始祖遠光二十八世之苗裔越前勝山城主

大樹之參政乃父小笠原長貴天保十一歳次庚子春二月

二十九日病薨于東都葬武州淺艸海禪寺裡矣又其生前

所落之牙齒病床所用之枕及殯所剃之髭鬚所裁兩手之

爪等聚昇収瘞勝山開善寺方墳之下以為神是無他永為

如在之敬也嗣子長守謹誌焉

苗裔…びようえい。末孫。天保十一歳…一八四〇年。裡…り。うち。殯…もがり。かりもがり。昇…こし。瘞…えい。埋葬する。如在…じょさい。つつしみかしこむこと。正徳四歳…一七一四年。

C-22 (小笠原信房墓)



青巖院殿潔山玄皎大居士

(裏)

寛政六甲寅春正月念日

C-23 (小笠原信辰墓)



判読不能

法専院殿一祐愚入大居士神儀

(側面)

享保二十一丙辰年

二月念八日

C-24 (小笠原長教・長守墓)



長教院殿前相州刑刺史一惠愚伯大居士
心源院殿大巖義秀大居士

(裏)

明治廿四年七月二十四日

寛政十一己未年三月十日

(側面)

公病薨於 東都既葬于武州海禪寺先塋之
咸矣今其臍帶生前所落之牙齒及殮所剃之
髭鬚病牀所用之枕所服之中裙恭竝収瘞乎
窀穸以為靈矣此為以致其如在之敬也

苗裔…びょうえい。末孫。天保十一歳…一八四
〇年。裡…り。うち。殯…もがり。かりもがり。
昇…こし。瘞…えい。埋葬する。窀穸…ちゅん
せき。墓場。如在…じょさい。つつしみかしこ
むこと。明治廿四年…一八九一年。寛政十一年
…一七九九年。

C-25 (小笠原信成・妻墓)



判読不能

承德院殿前能州刺史仁叟量寛大居士

智雲院殿香■誉貞薫大姉

(側面)

享保十五庚戌年

七月十四日

享保二十乙寅(卯) 曆

十二月十四日

注…乙寅は乙卯の間違い。享保二十年…一七三
五年。

C | 26 蓮如上人碑



蓮如上人碑

(裏)

昭和47年2月移転
住職 佐々木蓮證

同行一同

世話人 島田伊之助

前田 喜栄

工事方 岸上 伊作

石工 河野三之助

彫刻人 酒井 京吉

大正十五年十月建立

大正十五年…一九二六年。

【解説】

十四代の時、比嶋の伊藤家より法勝寺墓地に移す。昭和に入り現在地に移す。

C | 27 開基西順碑



開基西順碑

【解説】

野津又長勝寺を開いた人物である。碑は大野長勝寺より移された。

C | 28 (良賀墓)



享保六癸卯祀 三部都法大阿闍梨権大

勝山

梵字松尾山神宮寺第一世

責圓

十一月十六日 僧都法院良賀大和尚位

享保六年…一七二一年。

C-29 哀悼之碑遷座記念



哀悼之碑遷座記念

此の碑は曩に長山公園に
建設し在りしが我分會員
一統相謀り招魂社を造営
するに當りて此処に遷座合
祀するものなり

大正拾參年拾月五日

帝国在郷軍人會勝山町分會

大正拾參年…一九二四年。

C-30 招魂社



招魂社

(裏)

奉納 小林平三郎

(側面)

大正十四年八月 呉石 謹書

大正十四年…一九二五年。

C-31 忠靈塔

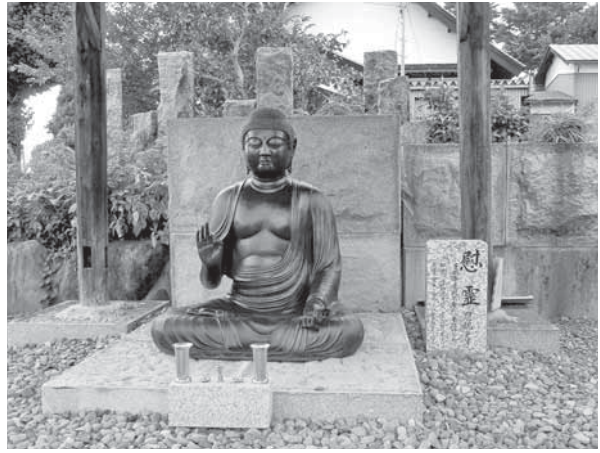


支那事變 昭和丁巳年

忠靈塔

昭和丁巳…昭和五十二年。

C
|
32 (慰靈碑)



慰靈 怨親平等

支那事變戰死者総墓改修之歳
願わくは此の功德を以て普く一切に及ぼし
我等と衆生と皆共に仏道を成ぜんことを

(裏)

寄進 仏像一体

施主 松村 卓爾

松村 圭市

為先亡類代供養

惟時 平成十九年三十六世泰啓代

C
|
33 忠魂碑



忠魂碑

元帥伯爵東郷平八郎書

(裏)

大正四年十一月建之

帝國在郷軍人會猪野瀬村分會

大正四年…一九一五年。

C
|
34 勝山城址之碑



勝山城址之碑

明治二十二年三月

源長守書

(裏)

勝山城址碑蔭記

元禄四年七月小笠原貞信公自美濃

高須移封茲土食邑貳萬石餘迨嫡孫

信辰公創築本城廣二町袤三町襟山

帶河沃饒四塞天府之險也至八世長

守公奉還封土任勝山藩知事明治四

年廢藩置縣公以其年八月去茲土移

居東京自貞信公移封至長守公去國
凡一百八十一稔矣後二年有廢城之
令舊封土民惜其終歸湮滅建石城址
以遺永遠 舊藩士木下義雄謹記
明治二十二年歲在己丑三月

子爵 小笠原長育書

元祿四年…一六九一年。

【解説】

廃藩以降荒廃した勝山城を見るに忍びず、小笠原立也・秦勤有などが中心となり寄附金を募り碑は建てられた。完成は明治二十二年（一八八九）で、碑には小笠原氏の勝山入部から廃藩に至る簡単な歴史が記されている。

C-35 舊跡勝山藩成器堂跡



舊跡 勝山藩成器堂跡

（裏）

明治四十一年創立
勝山菓子組合
八十五周年記念

石倉	清司	田中	一郎	八百	貞夫
大沢	誠	中村	良雄	柳原	博
岡田	薫	西野	米太郎	山内	稔
加藤	憲治	布川	久	山川	龍作
加藤	裕二	早川	常夫	横山	真治
川端	幸雄	細野	藤市	横山	正一
敷島	英治	松田	憲之	和田	與次郎
下川	勉	丸屋	仁志		

明治四十一年…一九〇八年。

C-36 道標（白山道 中橋道）



白山道 中橋道

（明和五年）

明和五年…一七六八年。

平成五年十月吉日建立
勝山市教育長仲村茂春書

C-37 道標（平泉寺道）



平泉寺道是ヨリ東三十丁

大正三季六月樹之

寄附者旅館角吉 板甚 米伊

大正三年…一九一四年。

C-38 道標（坂谷みち 平せんじ道）



坂谷みち 平せんじ道 宝暦四甲戌六月

宝暦四甲戌…一七五四年。

C-39 （福祉会館中庭説明碑）



この庭園は築山林泉式といい桃山時代の作庭手法と現代感覚を加味した造園家中根金作氏の作である

昭和五十一年九月

勝山市長 高野春三

昭和五十一年…一九七六年。

C-40 からくり時計



からくり時計

300年余の伝統に支られた、勝山の左義長まつり。

このまつりのように、長く愛され親しまれるようにと、からくり時計を設けました。かわいい11体の人形が、左義長のお囃子にのって、精一杯演技いたします。

開演時間／午前十時・午後零時・午後一時

午後三時・午後五時

演技時間／約3分

勝山市立図書館

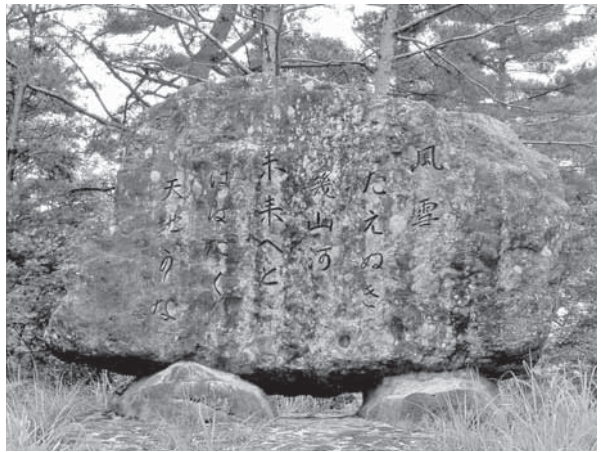
C-41 (大清水説明碑)



大清水

かつて七里壁の裾からはあちこちで湧水があふれていました。中でも大清水は、生活用水や川魚のいけす、飲物や果物を冷やす場所として利用され、後町界隈のひとびとのくらしを支えてきました。明治二十八年（一八九五）、「十人組」と呼ばれる有力者たちが中心となって不動明王を祀る祠が建てられ、毎年七月二十八日には商売繁盛・家内安全などを祈願して祭礼が行われていました。現在は、七月最終日曜日に「大清水祭り」が行われています。

C-42 (ふるさとの碑)



風雪

たえぬき

幾山河

未来へと

はばたく

天地かな

(裏)

我々は終戦直後の昭和二十三年この地に入植、爾来四十数年、厳しい自然環境と闘いながら機械力の乏しい時期に自らの手でようやく田畑として開拓自活できるまでに仕上げた。

この地に対する愛着は言葉に言いあらわせないものがある。

このたび我々開拓者一同は、リゾート開発に協力するため断腸の思いでこの地を離れることになった。

我々は、新しい時代の幕開けてと、勝山市の限らない発展を期待し、進んでこの地を提供した。

C-43 (市制四十周年記念碑)



勝山市の大きな飛躍を祈念して

市制施行四十周年。「飛翔、今ときめきのはばたき」をテーマに、七月二十五日早朝、成器

西小学校グラウンドで四千百二十四名の参加を得て、NHK夏期巡回ラジオ体操を行いました。引き続き行った巨大人文字では、当市のイメージキャラクターであるチャマゴンを見事に描くことができました。

これは、市民の心が一つになった現れであるものと確信いたしております。

この一体となった姿こそ二十一世紀へ躍進する勝山を象徴するものであります。

ここに、多大のご支援とご協力をいただいた関係各位に感謝するとともに、この成功を記念し、人文字写真と参加者全員の氏名をパネルに刻み、後世に伝えることとします。

平成六年九月一日 勝山市長 今井三右衛門

(裏)

市制40周年記念

夏期巡回ラジオ体操&巨大人文字参加者

C-44 (タイムカプセル碑)



勝山市制百年に
集う人々へ贈る

昭和五十九年九月一日
タイムカプセル埋設

勝山市長 池田 勤也
勝山市議会議長 西出 巖

昭和五十九年…一九八四年。

C-45 置県百年記念碑



置県百年記念碑

明治十四年二月七日、越前と若狭の地域をもつて福井県が誕生して以来、百年が経過した。

勝山市は、昭和二十九年市制を施行し、織物のまちとして恵まれた自然環境とともに、人情と伝統芸術、織機の響きのなかに息づき、現在の文化、産業都市として発展してきたこの発展は、三万余の市民がそれぞれの立場で極めて賢明な適応力を発揮してきた結果である。

これからは未来を展望し、情操環境都市に向けて人間、田園そして産

業都市として発展を期したい。

この恵まれた地に誇りと希望をも
つて生きるわれわれは、先人たちが
残した偉大な足跡を礎とし、福井県
と勝山市が永遠に繁栄することを念
願し、ここに置県百年を記念して、
この碑を建立する。

昭和五十六年二月七日

福井県知事 中川平太夫

勝山市長 池田 勤也

明治十四年…一八八一年。昭和二十九年…一九五
四年。

C-46 (創立25周年記念碑)



創立25周年記念

勝山ロータリークラブ

C-47 (ゆとり 創造宣言都市碑)



ゆとり

ゆとり創造宣言都市

恐竜王国 自然と歴史 ふれあいの里

平成6年8月指定

労働省・福井労働基準局

(社) 福井労働基準協会

(社) 全 基連

C-48 (創立十周年記念樹碑)



勝山ロータリークラブ

創立十周年記念樹

昭和四十六年六月

(裏)

十周年会員

池田 知幸

坪坂 勉

松村 季夫

大六 繁二

坂野 銀造

小泉 次郎

和田 金作

松村 十郎

阿部 武雄

成宮 定吉

小林 義高

辰巳 巖

松崎 良二

藤田 蘇久偉

中村 精

上為 市

竹辺 茂

松山 繁

道関 泰雄

佐々木 定治

丸屋 仁志

森 秀雄 白木 竜治 山岸 正二
橋本 久 松村 一 森山 英二
武藤 邦雄 山本 積雄 平泉 逸郎
松村 治孝 村島平三郎 滝川新一郎
八百 寛

昭和四十六年…一九七一年。

C-49 (歩こう会体操会場碑)



歩こう会体操会場

(裏)

昭和五十六年五月吉日

昭和五十六年…一九八一年。

C-50 (植樹記念碑)



八重咲桜十本

(側面)

贈 勝山ロータリークラブ

(側面)

平成二十年四月八日

C-51 (即如巡教記念植樹碑)



本願寺

第二十四世

即如門主御巡教記念植樹

(裏)

二〇〇二年(平成十四年)五月九日

C | 52 百万本植林記念碑



百万本植林記念碑

勝山の名ニふさわしく

木を植うる

末乃世かけて

慣はし欲しき

昭和三十七年八月

勝山市

昭和三十七年…一九六二年。

C | 53 (毘沙門金灯籠)



秋葉山常夜燈

金光山見性院

現主活道智伶首座

越中州高岡住

御鑄物師 藤田勘右工門

般若覺左工門

當所

松下武右工門

越中高岡請負人 開發屋勘右工門

施主

町郷中

万延元庚申歳

十月五日建立

世話人

梅田伝兵衛

玉木甚兵衛

玉木理太良

鍛冶屋新九良

笠松武兵衛 澤屋喜兵衛
佐々木次右工門 油屋吉兵衛
美濃屋平三良 御馬屋忠右工門
綿屋茂右工門 板木屋徳右工門
和泉屋茂八 昏屋傳藏
南部権兵衛 瀬戸物屋儀右工門
酢屋仁右工門 室屋多作
木屋長右工門 野津又屋市右工門
新町屋五郎兵衛 鮎屋九兵衛
郡屋與八 八百石太良
炭屋喜兵衛 山田屋利兵衛
金屋與右工門
玉木市三良

万延元年…一八六〇年。

C | 54 (元禄四年勝山神明社灯籠)



元禄四年
奉寄進 石燈籠

辛未十一月□辰 惣家中

元禄四年…一六九一年。□は丙もしくは戊。

C-55 (享保六年勝山神明社灯籠)



奉寄進 御寶前 敬白

中屋彦七郎

享保六辛丑稔初秋吉日

澤屋孫三郎

昭和廿七年秋修理

二百三十一年後裔

下元禄

鶴野亀一郎

下後分家初代

藤田六之助

享保六辛丑稔…一七二一年。

C-56 (尊光寺灯籠)



元禄四辛未年七月廿八日

奉寄進 源 清

安田十兵衛

元禄四辛未年…一六九一年。源清は郡町安田宗三良 法名照円妙祐。

C-57 一心講創立紀念碑



明治三十拾年三月十日
一心講創立紀念碑
講元芳野区白木治助

(裏)

建石寄附人

斎門久三郎

世話人

白木 治助

北川喜四郎

横川 平蔵

堀 喜蔵

岩光 久吉

藤澤 石松

大谷伊太郎

山場 治作

久保 與市

柳原 藤吉

加野 五助

岩佐 由松

中村 八助

吉野 久吉

稲木善三郎

齊門十右エ門

清水 惣助

柳原弥兵衛

細埜清太郎

猪野 清助

木田久右エ門

角川政右エ門

中村三之助

河野藤兵エ

明治三十拾年…一八九七年。



校舎建築記念之碑

(裏)

明治四十三年二月十四日勝山町立成器女子尋常高等小學校舎一棟積雪の為に倒壊せらる郷党咸曰く學校の事たる一日も忽諸に付す可からすと越えて二月大阪人野村徳七君偶来りて勝山に在り之を聞きて獨奮つて改築の資を捐て校舎終に成る規模舊に倍し頓に面目を革む闔郷感嘆已ます胥謀りて其功を石に勅し以て新築の紀念と為さんと欲し来りて予に一言を請ふ予未た君を識らず之を郷人に聞く曰く君幼字は信之助後父の名を襲ひ徳七と改む父は河内の人母は勝山の舊藩士山内氏の二女年十四にして大阪に出て後君の父に嫁す賢婦の譽あり君の此舉は蓋し母の故を以てなりと又曰く君天資仁慈賞鉅萬を累ぬ獲れは輒ち之を公共事業に投し毫も聲聞を求むるの心なしと嗚呼君の如きは眞に富んで善く施す者と謂つ可し望むらくは後の此校に出入する者永く君の徳を懷ふて敢て譲る、

明治四十四年五月

題辭 福井縣知事正五位勲四等

中村純九郎

撰文 福井県大野郡長正七位

若杉 喬

成器女子尋常高等小學校長 三竹 勝造 謹書

本碑ハ昭和七年九月一日元女子校地ヨリ此所ニ移ス
昭和五十年九月一日成器西小學校は昭和町一丁目
旧勝山中学校跡地に改築のため移転した

請負人

原 五市

作人 大野町

森永 作助

斎藤 甚松

岸上 伊作

【解説】

明治四十三年（一九一〇）に大雪のため西器女子校が倒壊した。母の故郷が勝山であったことから、野村徳七は資金提供を申し出、翌年校舎は完成した。碑には徳七の人柄とその功績が記されている。

碑は最初成器女子校にあったが、移転を重ね昭和五十年（一九七五）現在地に移された。